



昭和 2(1927) 年夏の鳥居龍蔵を 追いかけて

湯浅利彦 (友の会会員)

コロナ禍である。約 100 年前のスペイン風邪 (H1N1 亜型インフルエンザ) の流行は収束まで 3 年を要したと言われる。このたびの新型コロナウイルスは、いつ普通のインフルエンザ並みの病気になるのだろうか。自分も高齢者に近いが、身近に真正高齢者を抱える身としては、1 年を超える県内引きこもり状態は致し方ないところだ。

関西縄文文化研究会は 2020 年 7 月からオンライン例会を始めた。8 月の例会に初めて参加してみた。主催者に参加希望メールを送り、招待されたら Zoom 参加。顔出しも音声参加もできるけれど、ひっそりと発表を聴く。パワーポイントも見やすく、大会場で机もないまま聴くより良い。往復の旅路は楽しいが、時間は節約できる。また可能とわかれば、敷居は低くなる。日本人類学会大会のような、普段なら気が引けてしまう学会にも参加できた。ただ、オンライン懇親会は参加する勇気がまだ湧いてこない。「新しい生活様式」の一端に加わっていると言えるのだろうか。

前置きが長くなったが、12 月の関西縄文文化研究会オンライン例会で、愛媛県愛南町の松本安紀彦さんの「平城貝塚の今 - 発見 130 周年とその先を目指して」を聴いた。平城貝塚は、西南四国を代表する縄文時代の貝塚である。明治時代に高知県の寺石正路まさみちによって宿毛貝塚すくもと一緒に『東京人類学会雑誌』に紹介された。数

回の発掘調査で豊富な遺物が出土した。九州と瀬戸内の土器型式が交錯する当地で、1982 年に犬飼徹夫いぬかいてつおさんが「平城 I 式」・「平城 II 式」を設定し、その先後関係をめぐって研究者間の意見がたたかわされている。そして、明治以来の成果をまとめようと松本さんは頑張っている。

発表を聴いていると平城貝塚の歴史のなかで、東京人類学会の大野雲外おおのうんがいが見学、郷土史家の長山源雄ながやまもとが発掘、そして 1927(昭和 2)年には鳥居龍蔵が調査に参加した云々。「え? 鳥居?」発表後、松本さんに問い合わせたら、長山源雄が 1938(昭和 13)年に書いた『南宇和郡史』の該当部分を送ってくれた。なるほど確かに。手元にある鳥居年譜には見当たらないので、鳥居龍蔵を語る会の天羽利夫さんと鳥居龍蔵記念博物館長の長谷川賢二さんに、情報提供した。すると、天羽さんから「もうちょっと調べて。出来がよければ、『鳥居龍蔵研究』第 5 号に載せるよ」と言われて調べ始めた(投稿済み。詳しくはそちらで)。

昭和 2 年は 1 月に仏留学中の長男龍雄が客死し、4 月に長女幸子が遺髪を携え帰国した。鳥居龍蔵、失意の年である。

まずは、徳島の新聞に鳥居の行動予定など掲載されてないか、7 月・8 月の記事を唯一閲覧可能な『徳島毎日新聞』で確認した。8 月の南予地方のことまでは記事にないが、7 月が出るわ出るわ、徳島県内で 6 日間、延べ 9 回も講演している。当時、愛媛県内の地元新聞は『海南新聞』『伊予新報』『愛媛新報』『南豫時事新聞』の 4 紙である。『伊予新報』は該当期の資料は残ってない。『海南新聞』『愛媛新報』は愛媛県立図

書館でマイクロフィルムで閲覧、『南豫時事新聞』は国会図書館にマイクロフィルムがあるのだが、緊急事態宣言区域に行く勇気なく未見。愛媛新聞社読者部が、関連記事を1件見つけてくれた。鳥居が主宰する『武蔵野』の当時の記事も参考になった。

そこで、新聞記事等から復元された鳥居の行動記録である。

1927(昭和2)年7月3日東京で「日本新八景」審査委員会出席、その後北海道狩勝峠(日本新八景選出地)を現地調査、11日帰京してそのまま岡山経由で香川県に入り、国学院大学弁論部学生と合流して大学主催の巡回講演、12日高松市講演、13日琴平町講演、14日多度津講演である。15日朝県境を越え池田町に入り、町長と大歩危・祖谷溪視察、夜は池田公会堂で講演、16日昼に脇町講演、夜は穴吹講演、17日徳島に入り、小松島講演、夜は新町有志と徳島人類学会が主催する懇親会に出席、18日午前、墓参り調査に寺町界隈を巡り、昼は市長歓迎宴、午後は光慶図書館で史料見学、夜には千秋閣で講演して23時半終演。19日昼は富岡中学校(現富岡西高)と富岡高等女学校(現富岡東高)でそれ

ぞれ講演、夜富岡町(阿南市)役場で講演、20日撫養町(鳴門市)講演、21日淡路島洲本講演である。学生6人が演説の後に鳥居が講演する形で各会場3時間以上の熱演だった。徳島毎日新聞社が後援していたが、16日の新聞には脇町と富岡の会場は未定のまま広告されているのに1000人も聴衆を集めたという。穴吹会場、富岡の学校2校も急遽決まっている。どんなシステムだったのか、不思議な気持ちである。

17日の取材では、洲本での講演終了後、徳島に帰って3日間は写楽の調査をしたいと述べていたが、実際は不明。8月3日に談話記事があり、城山貝塚を活かした遺跡公園を造り、陳列館に出土品を並べ、佐古配水場出土の丸木舟も一緒に展示すべきと気炎を上げたが、インタビュー時期はわからない。8月1日から4日まで仙台で開催の日本学術協会で講演する予定記事(『人類学雑誌』42-6)があり、同時期に鳥取県で巨石遺跡を発見した記事(『山陰史蹟』3-1)もあり、情報が錯綜しており確認できない。

その後確実なのは8月8・9日に、宇和島で南予文化協会に招かれ夏季文化大学講師を務めたこと。10日に長山源雄の案内で平城貝塚を

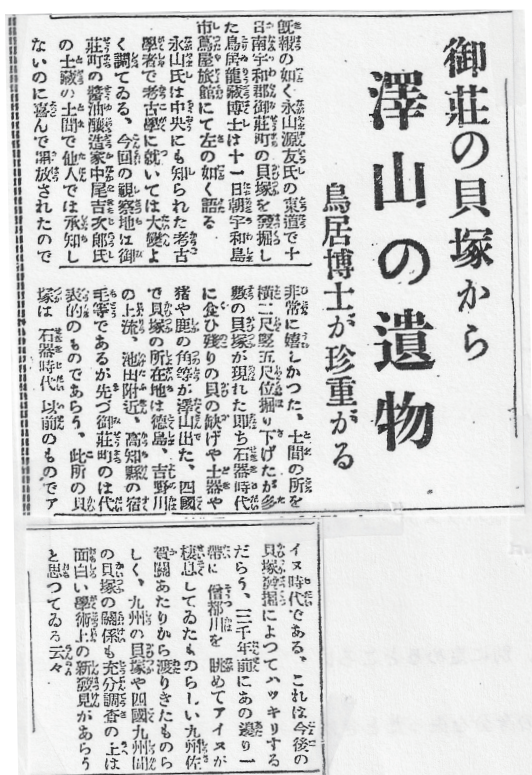


『徳島毎日新聞』昭和2年7月17日付

発掘,11日北宇和郡吉田町(現宇和島市)で講演,12日松山城の土器石器見学,13日松山市内遺跡見学,14日講演と今治市内遺跡見学の後,帰京した。

帰京後すぐに,満鉄東京支社から講演依頼を受け,20日にはすでに大連に入っている。中国東北部(旧満州)旅行は鳥居龍蔵記念博物館の展示解説第2集『地図に見る鳥居龍蔵の足跡』に,中国東北部・内モンゴル調査ルートの第8回調査として10月14日までの行程が示されている。

中国東北部に至るまでのこの期間の行動について,かなりの部分が新知見であるが,期待の長男龍雄を失った悲しみを吹っ切ろうとするような行動力に舌を巻いてしまう。マスコミとの親和性が強い有名人である鳥居が故に,驚異的な行動を新聞記事で追うことができる。追いかければ次々と捕まってくれる,追いかけて甲斐のある,偉大で無邪気な鳥居龍蔵である。



『愛媛新報』昭和2年8月13日付

友の会行事報告

さよなら常設展 一度限りの夢企画

- 日時 8月30日(日) 17:15～18:15
○場所 博物館常設展示室
○担当 行成正昭, 大杉洋子, 本田壮一

(友の会役員)

小川誠, 大橋俊雄, 中尾賢一,
庄武憲子, 茨木靖, 磯本宏紀,
岡本治代, 井藤大樹(博物館学芸員)
丸山直生(博物館係長)

- 参加者 41名

リニューアル工事のため,博物館常設展示室が令和2年8月30日に閉室されました。平成2年11月から30年間親しまれてきた常設展の見納めとなったこの日,閉館してからの約1時間,友の会会員限定の特別企画「さよなら常設展 一度限りの夢企画」を開催しました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止に十分配慮し,文化の森シンボル広場の噴水のカウンタダウんで夢の企画がはじまりました。閉館直後だったため,博物館や図書館から帰宅する利用者から,参加の問い合わせが相次ぎました。楽しそうな雰囲気を遠くから見ている人も少なくありませんでした。

参加者を5人程度の8グループに分け,さらにA・B(4グループずつ)の2コースに分けました。Aコースは「天狗久工房」「とくしまの自然とくらし」「段の塚穴」「骨格標本の世界」,Bコースは「植物の種子」「阿波のやきもの」「海辺の自然とくらし」「ナウマンゾウのナウマンゾウの全身骨格」を交代で巡り,それぞれ専門の学芸員が展示解説を行いました。

参加者は解体予定の展示ケース内に入った,展示物になったつもりでケース内の自分の姿を写真に撮ってもらったりして,「最後」ならではの見学を楽しんでいました。

(丸山直生)

Voic^e 参加者の声

●^{ふくだ ふきよ}福田富紀代さん

「一度限りの夢企画」というタイトルに魅せられられ、参加させていただきました。「密」になることなく、小グループでピンポイントの説明でしたので、とても聞きやすく、しかも私がこれまでスルーしていた所でもあったので、大変興味深かったです。

展示ケースの中を見せていただいたり、ケース内に入らせていただいたり、その期待を裏切ることのない、楽しい企画でした。来年の新しい展示を大いに期待しています。そして、新展示室でも、今回のように説明してもらえる企画をお願いしたいと思います。

●^{なかむら さやか}中村佐也加さん

長男長女が小さいときから、何度も何度も(小学校に入るまでは毎週のように)足を運びましたが、いつもゆっくり展示を見ることはなかったので、実際いろいろ解説が聞いてよかったです。子どもには、難しかったかもしれませんが、いい経験になりました(よく見ていたのは、昆虫やメガテリウムあたりでした)。ありがとうございました。新しくなる博物館も楽しみにしています。

●^{なかむら ゆうや}中村優也さん

はくぶつかんの中がみれてよかったです。ありがとうございました。



天狗久さんのそばに行ってみたよ！



ナウマンゾウにだって大接近！

●^{だいじゅうしげこ よしのぶ}第十茂子, 良伸

今まで何度か常設展示を見学しましたが、今回のように専門分野の学芸員の方々の説明を聞きながらの見学は新たな発見があって楽しかったです。特に、植物担当の茨木先生による南方からの漂着物(種子)の説明で、沖縄から海陽町の浜に漂着した種子が、発芽して育っていたものを発見したこと、それを鉢植えにしたものを持参し、自慢しながら説明してくれたことが印象に残っています。リニューアルした常設展示を楽しみにしています。

●^{むねしげ さなえ}宗重早苗さん

普段は入れない所に入ることができて、大変楽しかったです。たくさんお土産をいただき、ありがとうございました。好きな生き物(ウミウシ)のストラップが入っていて、息子が喜んでいました。新しい博物館をとっても楽しみにしています。



植物には子孫を残すため、種を遠くに運ぶ様々な仕組みをもっています。

●湯浅利彦さんゆあさとしひこ

30年間親しんだ常設展に感謝を込めて、見送らせてもらう機会を作ってくれてありがとうございます。昭和の成果をかたちにした展示から、平成の新研究成果を加えて、新しいものができるかと期待を持っています。そのかたちに生命を与えるのは、学芸員のみなさんの言葉です。先日の催しでもそのことを痛感しました。

●形部仁悠さんかたべにちか

僕は、今回の行事で思い出に残ったのは、骨格標本と一緒に写真を撮ったことです。

普段見ることができない所や、見学に行った時にあまり気にしていなかった所を解説をもらって、勉強になったし、興味を持ちました。また、展示物を作る時に大変だったことなどを聞くことができ、何度も見に来ている展示物が見られなくなることが、少し淋しい気持ちになりました。新しい展示も楽しみにしています。

●小林恵さんこばやしめぐみ

4歳の息子がちゃんと話を聞けるのか心配がありました。特に種子と実の所の解説がとてもおもしろかったようで、息子の世界が広がりました。ありがとうございました。

友の会行事報告

レキシルとくしまの見学と
板野町の遺跡散策

○日 時 1月23日(土) 13:30～16:00

○場 所 レキシルとくしま、板野町

○担 当 徳野壽治とくのとしはる (友の会副会長)新居美佐子にいみさこ (博物館館長)植地岳彦うえだけひこ (博物館学芸員)

○参加者 10名

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となった愛媛県松山市へのバスツアーに代わって、県内での資料館見学および遺跡散策を行いました。

今回訪れたのは、板野町にある「レキシルとくしま」で、徳島県内で発掘された考古資料が1,600点以上展示される常設展示室と、開催中の企画展「発掘へんろ 四国の風土と暮らし2」を見学しました。その後、レキシルとくしま周辺で遺跡散策をしました。遺跡は、私たちが今現在暮らしている地面の下に埋もれていて、「ここが遺跡」という実感があまりわきません。そこで、遺跡のある場所を中心として、阿讃山脈や黒谷川、現在も利用している道などを頼りに、古より交通の要所であった板野の弥生時代や古墳時代の様子について、想像を膨らませてもらいました。当日は天候に恵まれず、雨風に打たれる中での足早の散策になったのが心残りです。次回は晴天ので、ゆっくりと散策したいと願っています。

(植地岳彦)

Voic^e 参加者の声●桑内隆さんくわうちたかし

「レキシルとくしま」では、国の重要文化財に指定されている「矢野銅鐸」に直面。自宅が矢野古墳の近所でなじみがありますが、実物を見て印象に残りました。

「朱」については、縄文時代などで国内最大・最古級と知り、加茂宮前遺跡にも行きたくなりました。

雨の中でしたが、周辺のことを教えてもらうなかで、板野町が古くから栄えていて、讃岐と国府などへの交通の要衝だったと知り、たいへん勉強になりました。

●福田和弘さんふくだかずひろ

今回の行事で初めて「レキシルとくしま」に入館しました。館内の展示物のうち代表的な出土品等について、担当の県立博物館の植地学芸員さんから発掘時や、発表のエピソードを交えて解説していただきました。特に、「矢野銅鐸」や辰砂から「朱」の製造については、古代の徳島の文化や生活を垣間見ることができ、非常に

興味をひかれました。

また、あいにくの天候でしたが、近隣の遺跡を案内していただき、長年徳島に住んでいながら知らないことばかりで、ほんの少しですが「歴史知る」1日となりました。ありがとうございました。

● Kさん

初めて参加させて頂きました。昨年5月に徳島へ来たばかりの私にとって、徳島のことを知る良い機会となりました。レキシルとくしま館内の展示を見ながら、ていねいに解説をして頂き、とても勉強になりました。

そのあとの散策も、今自分が歩いている道の下に遺跡があると聞き、とてもワクワクしました。雨が降ってとても寒い日でしたが、昔の人の生活を考えながら歩いていると、あっという間でした。とても楽しかったです。ありがとうございました。



水路にかかる石橋。付近にあった古墳の横穴式石室の天井石を利用したとされる「青石の橋」

友の会行事報告

徳島まるづかみの旅 (県南編)

- 日 時 2月14日(日)
- 場 所 海陽町立博物館, 大里古墳
海洋博物館マリンジャムと
その周辺
- 展示解説 はまなおひろ 濱直大さん(とくしま海の観察会会長)
- 担 当 ゆき たかのり ほんだ そういち 結城孝典, 本田壮一
なか おけんいち いばら ぎ やすし 中尾賢一, 茨木靖(博物館学芸員)
まるやまなおき 丸山直生(博物館係長)

○参加者 16名

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、見学場所での滞在時間をそれぞれ30分程度にして行いました。

車から降りると、県南の春の陽気に迎えられ、楽しい旅の始まりを予感しました。海陽町立博物館では「海部刀」などの展示を見学しました。また、徳島県立博物館学芸員による「徳島まるづかみコレクション(徳島の自然や歴史・文化の魅力を紹介)」の展示解説や、漂着物の研究会「とくしま海の観察会」会長の濱直大さんによる展示解説がありました。海辺で集めた貴重な「宝もの」には、ヤシの実や貝殻などの天然物だけでなく、綺麗なガラスなど人工物も多く、中には「震災漂着物」と思われる物もあり、日々の生活や環境について考える機会となりました。



とくしま海の観察会会長 濱さんによる展示解説

続いて「大里古墳」を見学しました。海陽町立博物館では「石室のレプリカ」をはじめ、古墳の模型や出土した遺物の展示を見学しましたが、現地では歴史の重みを感じました。大里古墳は古墳時代後期の6世紀末から7世紀初頭に築造されました。昭和26年に海部中学校(現在の海陽中学校)教員や地元青年団によって発掘調査が行われ、翌年に県史跡の第1号に指定されました。平成8年には海南町教育委員会(当時)と徳島大学が調査を行い、この時期の古墳としては「県内最大の円墳」であることが確認されました。当日は友の会の結城さんが、お手製の資料で解説してくださいました。

海洋自然博物館マリンジャム内の「島のちい



友の会会員 結城さんによる大里古墳の解説

な水族館」では、サンゴやクマノミなど海の生物と淡水に棲む両生類の観察ができました。また、生痕化石（海底生物の生活のあと）や魚の頭骨標本などの展示物見学や、魚の餌やり体験を楽しむこともできました。

その後、マリンジャム周辺の2カ所で地層観察を行い、中尾学芸員がこの地域に特徴的な化石や地層についての解説をしました。参加者の方々は鋭い観察力で、貴重な化石を見つけたり、地層表面の模様について学芸員に質問したりしていました。その一方で、仲良くカニをさがす兄弟の微笑ましい姿も見られました。また「この綺麗な景色を見ることができただけでも十分」という声もあり、バレンタインデーの思い出づくりもしていただけたようです。

(丸山直生)



竹ヶ島とその周辺の地層を見学しました。

Voic^e 参加者の声

●^{やまだしんじ}山田慎二

博物館から古墳や地層へ移動しながら、いろんな歴史にふれることができた貴重な体験でした。天候にも恵まれ、楽しい一日となりました。

地層のお話は、とても興味深いものでした。でも、ちょっとレベルが高すぎる？（素人には難しすぎる）内容でした。

●Sさん

今回の徳島まるづかみの旅県南編の感想としては、地層の話が専門的すぎて分からないことがありました。でも、説明してもらわないと分からない展示物のすごさや徳島の良さを知ることが出来たので、とても良かったです。次は、工事中の新しい展示室を見せてもらいたいです。

●Kさん

海陽町へ行くのは初めてでした。キレイな海を見て感動していると、普段は「もっと美しい」とのこと。また行ってみたいです。海陽町立博物館の展示解説で、ビーチコーミングのお話を聞いたばかりだったので、午後の地層観察の際にも、つつい足もとが気になり、貝やガラスなどを拾ってしまいました。化石も見つけることができ、旅のお土産に持って帰りました。盛りだくさんの内容で、とても楽しい一日を過ごさせていただきました。

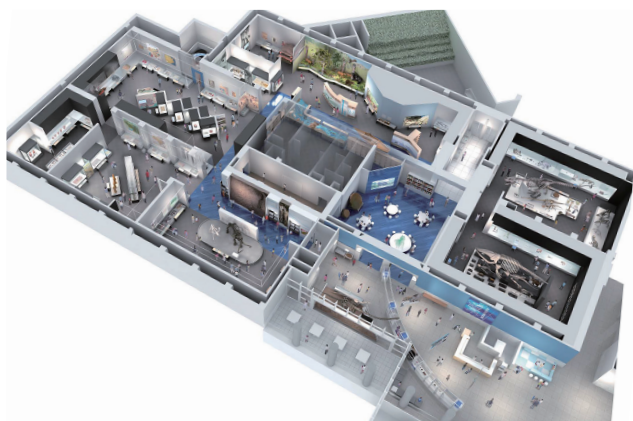
●^{ふくたふきよ}福田富紀代さん

盛りだくさんの内容の中で一番楽しみにしていたのは、地層や化石の観察でした。「生痕化石」を初めて知りました。生物自体ではなく、生物が活動した痕跡が化石として残るなんて……。私が見つけた化石にも、小さな生物が這った痕跡がはっきり見られました。竹が島の海岸では、足もとに転がっている岩石の中から見つけることができ、興味津々でした。

何億年も前から、ここで生命が活動していた証しなのですね。今、私たちが生きていることも、長い地球の歴史では一点にも満たないかもしれません。でも、脈々と生きてきた生物の一員として「きれいな地球を未来に渡していかなければならない」と改めて思いました。

常設展リニューアルのお知らせ

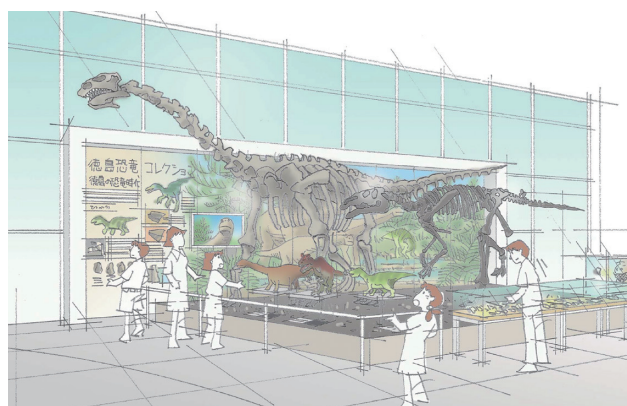
2021（令和3）年8月 グランドオープン！！
～県立博物館 常設展（2階）が新しく生まれ変わります！～



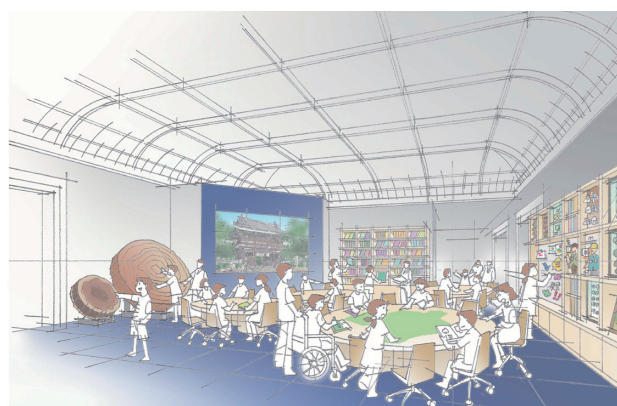
新・常設展のイメージ図



ロビーゾーンで、徳島の魅力をまるづかみ。



徳島の恐竜の最新情報満載
「徳島恐竜コレクション」



コミュニケーションゾーンは地域交流のステージ。
友の会の活動においても期待大です。

新常設展 4つのポイント

① 徳島まるづかみ！

今話題になっている徳島の恐竜化石発掘の最前線や、徳島の自然と歴史・文化を見て、触れて、感じるができる展示構成です。

② 先端技術で驚きの体験！

AR,VR インターネットや高精細映像を活用した展示システムにより、参加体験型の展示がさらに充実します。

③ 誰もが楽しめる場所！

多言語や音声・手話解説、グラフィック解説や多機能型解説設備を用いて、誰もが快適に楽しめる施設にします。

④ 地域の交流拠点！

レファレンス（調べもの相談）機能の充実や、県民の調査研究成果の発信を通して、県民とのつながりをより一層大切にします。

アワーミュージアム 第67号

2021年3月31日発行 : 徳島県立博物館友の会
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197 E-mail: mus-fukyu@bunmori.tokushima.jp